

幸せの輪

群馬県 明照学園樹徳中学校 三年

渡辺 紗

十万円を手にしたらあなたはどうしますか。私は十万円を受け取りました。特別給付金です。「使い道は自由、ただし、本当に必要なことに使ってほしい。」と母から言われました。一瞬欲しかったマンガ本が頭をよぎりました。しかし、「本当に必要なもの」はそれではありません。このお金の有効な使い道を数日間考えました。その結果、私は未来を担いながらも逆境にいる子どもたちにもたちに寄付することに決めました。「フードバンク」と「チャイルドスポンサー」です。

「フードバンク」とは、企業や個人などが施設や団体、困窮世帯に食品を提供する仕組みです。フードバンクの要望を問い合わせ、栄養面や賞味期限、価格などを考慮しながら買い出しをしました。一番大切にしたいことは、自分が食べたいと思う食品を選ぶことでした。受け取る人たちの笑顔を想像しながらの買い出しは、非常に充実していました。購入品を桐生市役所を持っていくと、職員の方に「ありがとうございます。とても助かります。」と言われ、誰かのために直接支援できる喜びを実感しました。

「チャイルドスポンサー」とは、経済が不安定な国や地域に住む人々の支援や、彼らを取り巻く環境を改善することを目的とした制度です。スポンサーの申請後、どんな子の担当になるのかワクワクしながら待っていると、女の子の顔写真が添えられた返信が届きました。タンザニアに住む八歳のパウリナヤコボちゃんという子でした。早速、彼女の住む町を地図で調べました。この地域に住む人々の八十%以上が一日一ドル以下の生活で、年間を通じて十分な食料が得られないそうです。私は毎月定額を寄付しています。とは言え彼女たちが簡単に貧困から解放されるわけではありません。しかし、ささやかではあれ、寄付の継続が彼女たちの境遇をきつと改善させるはずだ、と私は信じています。チャイルドスポンサーはフードバンクとは異なり、自分が選んだ物を直接届ける制度ではありません。しかし、写真や動画などで定期的に相手の情報を受け取ることが、私の思いが確実に届いていることを実感できます。行ったことがない国、会ったことがない人々に、遠く離れている私にもできることがあるという幸せを味わっています。

これらの寄付活動を今後も継続していくためにはどうしたらよいか、家族で話し合いました。そこで決めたことは次の二つです。まず、私のお小遣いやお年玉の一部を寄付にあてること、そして家族にも協力を仰ぎ、セール品やクーポンを利用した際の定価との差額から寄付金を捻出すること、です。

寄付活動を公表することに対して、「偽善者だ」とか「匿名で行うべきだ」と否定的な意見を述べる人もいます。特に日本人は「不言実行」を美徳とする感覚が根強く残っています。しかし、私はそうは思いません。人を助けることをあえて公表し、みんなに知っていただくことは重要なことです。なぜなら、ある人の慈善活動の公表が他の人の慈善活動への参加を促すこともあるからです。実際、私のヘアドネーションの経験の話したことがきっかけで、友達ヘアドネーションに挑戦すると言ってくれたのです。うれしかったです。こんな喜びもあるということを知りました。幸せの輪が広がった瞬間でした。実は、自分の労力や時間、お金などのコストを負いながら、他者に利益を与える利他的行動をとると、自分の幸福度が上がるといことがわかってきています。私たち一人一人が、無理のないできる範囲の利他的行動を取ること、周りが幸せになるとともに自分も幸せになれるのです。その「幸せの輪」があちこちで広がっていくことで、社会全体が幸せで満ち溢れるならば、こんなすばらしいことはありません。

みなさん、ぜひその一歩を一緒に踏み出し、「幸せの輪」を広げてみませんか。